

6月4日
(日曜日)

トゥレット症 啓発イベント2023

トゥレット症候群の基礎的理解

&

トゥレット症候群への歯科マウスピースの効果と可能性について

参加費
無料

< 医療講演 >

マウスピースの装着による
チックの緩和効果が
立証されています。
実際に治療に携わって
いらっしゃる歯科医師に
現状をお話いただきます。
(詳細は裏面)

「トゥレット症候群」を知っていますか？

街中で不自然な動きをしている人や、
突然、声を出している人を見かけたことはありませんか？
もしかしたら、それは「トゥレット症候群（＝トゥレット症）」かもしれません。
トゥレット症候群は「運動チック」と「音声チック」が1年以上続く神経疾患で、
発達障害（神経発達症）や強迫関連症でもあります。
その「動き」や「声」は簡単に止めることは出来ず、
周囲からの誤解や偏見を受け、患者たちは辛い思いをしています。
多くの方にトゥレット症候群を正しく知っていただくためにも、
皆様の参加をお待ちしております。

コロナ感染防止対策のため、本イベントはオンラインで配信します。参加方法は①Zoom参加（参加者の画像は映りません）と、②会場参加があります。会場参加の方は会場に設置した大型スクリーンをご視聴いただけます。どちらの参加方法でも、質疑応答にご参加いただけます。尚、上映会は会場参加のみの特典となります。

◆日時：2023年 **6月4日（日）14:00～16:30**（開場13:45）

注意:オンライン開催は16:00終了。

- ◆内容：
- 1) 基礎セミナー：トゥレット症候群の基礎的理解
 - 2) 医療講演：トゥレット症候群への歯科マウスピースの効果と可能性について
(講師: 望月歯科 望月雅人先生)
 - 3) 質疑応答：
 - 4) 上映会：トゥレットなんかには負けないぞ！（30分）

注意:上映会は会場でのみ開催。オンラインでの配信はありません。

- ◆定員：①Zoom参加/100名
②会場参加/20名

◆会場：練馬区社会福祉協議会
練馬ボランティア・地域福祉推進センター 会議室

◎住所：東京都練馬区豊玉北5-14-6 新練馬ビル 5階

◎アクセス：西武池袋線「練馬駅」中央口より徒歩4分
都営大江戸線「練馬駅」A1出口より徒歩3分

◆申込：要申込み・先着順・申し込み期間 4/22～6/3

「トゥレット友の会」公式ホームページの【イベント】ページよりお申込みください。

< 上映会 >

～ エミー賞受賞作品 ～
トゥレットなんかには負けないぞ！
(日本語字幕付き)

アメリカの子どもたちがトゥレット症候群と
向き合い、成長していく姿を追った
ドキュメンタリー作品。
お子様にも分かりやすい内容です。

「米国トゥレット協会」と
「HBO」との共同制作



トゥレット友の会
ホームページ

主催:トゥレット友の会

後援:練馬区・練馬区教育委員会・練馬区社会福祉協議会
NPO法人日本トゥレット協会・厚生労働省

Marie

トゥレット症候群の治療と歯科医師との関わり

2016年5月、トゥレット症候群治療推進学会が「スプリント（マウスピース）によるトゥレット症候群の緩和療法」を考案した米国の歯科医師 Dr.Anthony.B.Sims を日本に招聘し、大阪大学歯学部附属病院にてシンポジウム及びセミナーを開催しました。望月雅人先生は、その技術セミナーで、Dr.Sims より直接トレーニングを受けられた歯科医師のお一人で、今までトゥレット症候群の患者らの治療に当たられています。

トゥレット症候群への歯科マウスピースの効果と可能性について

望月歯科 望月雅人

トゥレット症候群に対する治療は投薬、行動療法が主体ですが、その効果には差があるようです。これはトゥレット症候群の原因や発生のメカニズムに、まだ解らないことが多いことが要因と思われます。

近年、国内に歯科のマウスピースを応用した治療法が紹介され、少しずつ、チック症状の軽減に効果があることが報告されてきております。

今回、私が日常おこなっておりますマウスピース治療の手順やその特徴を含め、現在分かってきたことをお話させていただきたいと思います。

【トゥレット症候群 / チック症】 Q & A

Q: チックとは何ですか？

A: チックは突発的で、素早く繰り返される不随意、或いは半随意的運動（動きや声）です。症状は千差万別で、重症度も個々により差があります。いずれの場合も簡単に止めることは出来ません。

Q: トウレット症候群とは何ですか？

A: 複数の運動チックと音声チックが1年以上続く神経系疾患の運動障害であり、発達障害（神経発達症）や強迫関連症にも属します。（WHOの国際疾病分類第11版 による）

Q: トウレット症候群はどれくらいの発症率ですか？

A: DSM5 * によるとトゥレット症候群の推定有病率は学童期の子どもでも1000人あたり3～8人の範囲であるとされています。（* DSM5＝米国精神医学会による精神疾患の診断・統計マニュアル第5版）

Q: チックの原因は何ですか？

A: 詳しいことは分かっていませんが、ドーパミンを中心とする神経伝達物質のアンバランスが示唆されています。

Q: チックは、社会ではどのように理解され、患者サイドはどのような思いをしているのでしょうか？

A: チックは、かつては「心因的なもの」「親の育て方のせい」などとされていたため、現在でも誤解を受けることが多く、本人や家族は辛い思いをしています。

また、不自然な動きや音声には、「変な人」「頭がおかしい人」などの偏見の目が向けられ、差別を受けたり、心に深い傷を負うような言葉を浴びせられたりします。

Q: トウレット症候群はチック以外で困ることはありますか？

A: トウレット症候群は発達障害（神経発達症）の1つでもあり、注意欠如多動症、限局性学習症、発達性協調運動症といったチック以外の発達障害が併存することもあります。また、強迫症、怒り発作、不安症、抑うつ、睡眠障害、感覚過敏、不登校といった症状を招くこともあり、QOL（生活の質）が著しく低下し、日常生活や社会生活に支障を来すケースもあります。

* 記事や画像の無断転写・転載はお控えください。

【問合せ先】 090-7000-7837 （トゥレット友の会事務局）

【主催】 トウレット友の会

【後援】 練馬区・練馬区教育委員会・練馬区社会福祉協議会・NPO法人日本トゥレット協会・厚生労働省